

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

| | | | |
|------------------------|--------------------|---|-----------|
| 地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称 | 名鉄バス株式会社 | | |
| 地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所 | 名古屋市中村区名駅四丁目26番25号 | | |
| 工場等の名称 | 名鉄バス株式会社 名古屋中央営業所 | | |
| 工場等の所在地 | 名古屋市中村区名駅南二丁目7-33 | | |
| 業種 | 運輸業、郵便業 | | |
| 業務部門における 建築物の主たる用途 | 事務所 | | |
| 建築物の所有形態 | 賃貸ビル等(賃貸している建築物) | | |
| 事業の概要 | 旅客自動車運送事業 | | |
| 計画期間 | 令和4年4月1日 | ～ | 令和7年3月31日 |

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

| | | | |
|-----------|------------------------|------------|------------------------|
| 公表期間 | 令和6年7月16日 ～ 令和6年10月14日 | | |
| 公表方法 | ○ | 掲示 閲覧 | (場所) 名鉄バス株式会社 名古屋中央営業所 |
| | | ホーム ページ | (HPアドレス) |
| | | 冊子 | (冊子名・ 入手方法) |
| | | その他 | (その他詳細) |
| 公表に係る問合せ先 | 052-588-0876 | | |

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は、名鉄グループ環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」を活動の指針としています。

【名鉄グループ エコ・ビジョン】

・基本理念
名鉄グループは、環境問題を地球規模で考え、地域・個人レベルで行動し、環境にやさしい企業を目指します。

・基本方針

- ①環境問題に対する一人ひとりの意識向上につとめます。
- ②環境保全に関する技術力の向上と提供につとめます。
- ③地域との連携を大切にし、環境保全に対する社会貢献につとめます。
- ④環境法令の正しい理解と遵守につとめます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

名鉄グループ一体となった活動を推進するため、2006年4月に「名鉄グループ アクション・エコ推進委員会」が設置されました。この委員会では、具体的な施策の立案と推進を行っています。

施策の実施を円滑に行うため、連絡会議の開催や各社に配置した「環境推進責任者」「環境担当者」を通じて、活動の浸透を図っています。

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

| | | | |
|-------------------|----------------------------|-------|-------------------|
| ①エネルギー起源二酸化炭素の排出量 | | 5,054 | t-CO ₂ |
| （温室効果ガス換算） | ②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。） | | t-CO ₂ |
| | ③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素 | | t-CO ₂ |
| | ④メタン | | t-CO ₂ |
| | ⑤一酸化二窒素 | | t-CO ₂ |
| | ⑥ハイドロフルオロカーボン類 | | t-CO ₂ |
| | ⑦パーフルオロカーボン類 | | t-CO ₂ |
| | ⑧六ふっ化硫黄 | | t-CO ₂ |
| | ⑨三ふっ化窒素 | | t-CO ₂ |
| | ⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前） | | t-CO ₂ |
| | 温室効果ガス総排出量（①～⑩合計） | | 5,054 |

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

| | |
|------------------|------|
| 温室効果ガスの抑制の目標設定方法 | 総排出量 |
|------------------|------|

| 項目 | 基準年度の実績 | | 目標 | | 計画期間の実績 | | | | | |
|---------------|---------|-------------------|---------|-------------------|---------|-------------------|---------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | 令和 3 年度 | t-CO ₂ | 令和 6 年度 | t-CO ₂ | 令和 4 年度 | 令和 5 年度 | 令和 6 年度 | 令和 6 年度 | t-CO ₂ | |
| 温室効果ガス総排出量 | 4,833 | t-CO ₂ | 7,047 | t-CO ₂ | 4,995 | t-CO ₂ | 5,054 | t-CO ₂ | | t-CO ₂ |
| 削減率（対 基準年度） | | | ▲ 45.8 | % | ▲ 3.4 | % | ▲ 4.6 | % | | % |
| 温室効果ガスみなし総排出量 | | | | | | t-CO ₂ | | t-CO ₂ | | t-CO ₂ |
| 削減率（対 基準年度） | | | | | | % | | % | | % |

| 項目 | 基準年度の実績 | | 目標 | | 計画期間の実績 | | | | |
|---------------|---------|--|---------|---|---------|---------|---------|---------|---|
| | 令和 3 年度 | | 令和 6 年度 | | 令和 4 年度 | 令和 5 年度 | 令和 6 年度 | 令和 6 年度 | |
| 原単位あたりの排出量 | | | | | | | | | |
| 削減率（対 基準年度） | | | | % | | % | | % | % |
| 原単位あたりのみなし排出量 | | | | | | | | | |
| 削減率（対 基準年度） | | | | | | % | | % | % |

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和元年度より長距離高速バスの運休が発生したことにより、令和6年度の温室効果ガス総排出量目標が「4,761t-CO₂」に設定されました。しかしながら、令和5年度も観光需要の回復により長距離高速バスの増便があり、令和4年度より4.6%増となっています。また社会情勢を鑑みると、長距離高速バスの需要も回復傾向にあり、今後の稼働率も上がることが考えられます。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

| 取組の区分 | 具体的な取組の内容 | 取組の目標 | 取組の実施状況 |
|-----------------------|---|--|---|
| 省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房 | クールビズの推奨 | 寒暖差に応じて被服を選択できるような期間を設定し、エアコンの稼働率を下げる。 | ・5月1日～10月31日までノーネクタイおよび夏服着用を許可。 ・制服にポロシャツを導入また制帽の脱着を個人判断にしている。 |
| 省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房 | 不要な冷房、暖房はこまめに切ります。また適切なエアコンの温度設定を行うことでエネルギー使用量削減に努める。 | ・エアコンの設定温度は、夏は28℃、冬は20℃に設定。 | 休憩所および仮眠施設において、冷暖房の不要な使用を削減。 |
| 省エネルギー・省資源の行動の実践・照明 | 昼間時間帯で十分照度のある場合は、不要な照明の消灯に努める。 | ・こまめに照明のスイッチのオン・オフを行う。 | 昼間帯においては、日光を取り込める休憩場所の照明を原則消灯。 |
| 省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器 | パソコンを省エネモードに設定。また退社時はパソコンの電源をオフとする。 | ・パソコン、プリンターを長時間使用していない時は、スリープモードになるよう設定。 | 退社時に不要なパソコンの電源を完全オフ。また、勤務中も使わない時間はエコモードに切り替え。 |
| 自動車等輸送機関に対する対策 | 環境運転の指導徹底を行う。 | ・デジタルタコグラフ出力データを活用し、従業員へエコ運転を意識づける。 | アイドリング時間の短縮とアクセルを優しく踏み込んで、無駄な燃料を使用しないように指導。 |
| 廃棄物の排出抑制 | 両面コピー、裏紙利用によりコピー用紙の削減。また、紙資源の分別を確実に行う。 | ・リサイクルコピー紙使用。 | 無駄なコピー用紙が出ないように、所内で使用するものには極力裏紙を使用。また、ごみと資源の分別を徹底。 |
| 廃棄物の排出抑制 | 会議など行う際には、資料を印刷せず、PCの画面を共有することで印刷物の削減。 | ・会議等へ出席する際は、ノートPCを持参する。 | 各デスクにモニターを増設。印刷物を削減。 |
| | | | |
| | | | |

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) における利用の状況

| 導入年度 | 設備等の種類 | 概要 (規模、性能、発生エネルギー量等) |
|------|--------|----------------------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

| 区分 | 再生可能エネルギーの種類 | 温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) |
|----|--------------|---------------------|
| 電力 | | t-CO ₂ |
| 熱 | | t-CO ₂ |

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) におけるクレジット等の利用

| クレジット等の種類 | 創出地 | 温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) |
|-----------|-----|---------------------|
| | | t-CO ₂ |

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

毎月 8 日にエアコンフィルターの清掃を実施